

平成22年度 知多中・味美中校区学校保健委員会

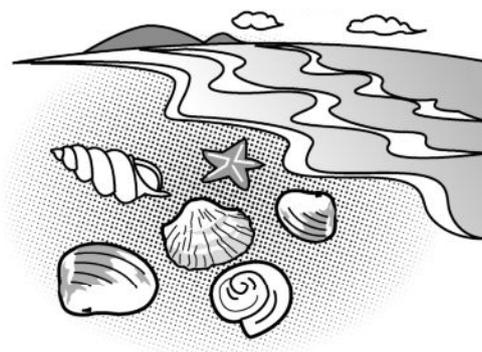
自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして  
—コミュニケーションの大切さから考える—



日時:平成22年8月23日(月)午後2時～3時30分  
場所:知多中学校体育館

# 次 第

- 1 開会の言葉
- 2 あいさつ
- 3 「コミュニケーション」についてのアンケート結果報告
- 4 講師紹介
- 5 講義「伝えたいこと、話せていますか？」  
味美中学校 スクールカウンセラー 鈴木 範子 氏
- 6 質疑応答
- 7 終わりに
- 8 閉会の言葉



## I はじめに

毎年、校区の子どもたちを、学校・家庭・地域で力を合わせて育てていきたいと毎年開催してきた知多中・味美中校区学校保健委員会も、5年目を迎えました。委員会を進めていく中で子どもたちの実態は年ごとに変化をみせていることがわかってきました。地域として同じ視点に立って子どもたちの課題をとらえ、その解決に向けて取り組むことの大切さが唱えられているここ数年が経過しますが、本校区としても地域の方々と力を合わせて子どもたちの健全な育成を進めていきたいと考えています。

さて、今年も夏休みに入ってすぐ悲しい事件を耳にしました。23歳の母親が2人の我が子の育児がいやになり、子どもを自宅に置いて家に帰らず死なせてしまったというものです。

母親は、幼い子どもに食べ物を与えず放置しておけば、やがては死んでしまうことも分かっているがそうしてしまったと新聞の記事にありました。

学校で子どもたちの生活を見ていると、日常のトラブルや学校での生活が楽しくなくなったりするケースが見られます。その原因としてコミュニケーション力の低下を感じます。自分が困っているとき、人にどのように助けを求めたらよいか。人に自分の思ったことを伝えたらうまく伝わらず、気まずくなって居心地が悪くなってしまった。みんな楽しそうにしているけれど、自分はみんなの中に入っていくことができないなど。周りの人から見ると些細なことでも、本人にとっては大きな問題になってしまいそうなケースを見かけることがあります。

先の事件の母親もどこかで自分の気持ちを打ち明けることができていたら、このような結果にならず、幼い命を救うことができたのではないかと悔やまれます。

私たちは自分一人で生きているわけではありません。人と人のつながりには必ず心のつながりが生まれ、人との関わりから得られる楽しさを感じることができると思います。そんな人と人のつながりを支えるコミュニケーションの大切さについて、今年度は考えてみたいと思います。



## II 実態調査結果

### 1 調査方法および調査対象

(1) 調査時期：平成22年7月

(2) 調査方法：質問紙法

(3) 調査対象：

- ・ 知多中・味美中校区5小中学校の児童生徒（小4～中3）

人	小 4	小 5	小 6	中 1	中 2	中 3	計
児童生徒	282	256	277	277	211	249	1552

## 2 児童生徒アンケート集計結果

### (1) 子どもたちの変容－校区学校保健委員会5年目を迎えて－

自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして、知多中・味美中校区で家庭・地域・学校の連携をめざした学校保健委員会を発足して5年目を迎えた。

これまで、校区の子どもたちの自己肯定感を高めるための活動を校区学校保健委員会で提案し、各校において実践を行ってきた。

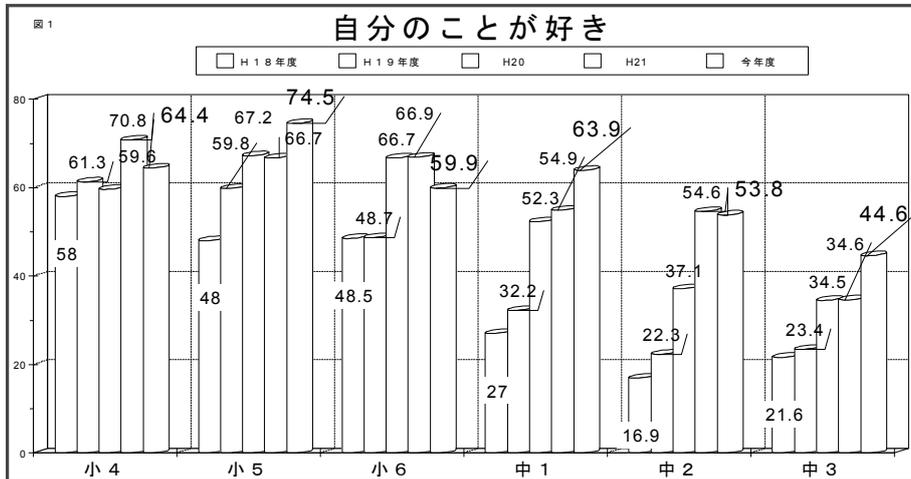


図1より

昨年の小4と今年の小5の結果を比較して見ると、「好き」と答える者が増えている。

小6は昨年の中5より、中3は昨年の中2より「好き」と答えた者が減っている。

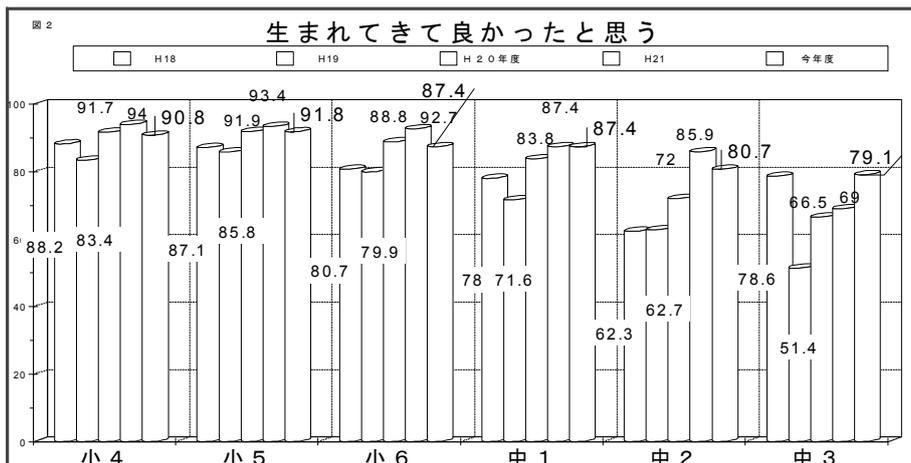


図2より

小4・小5は「生まれてきて良かった」と答える者が多い。

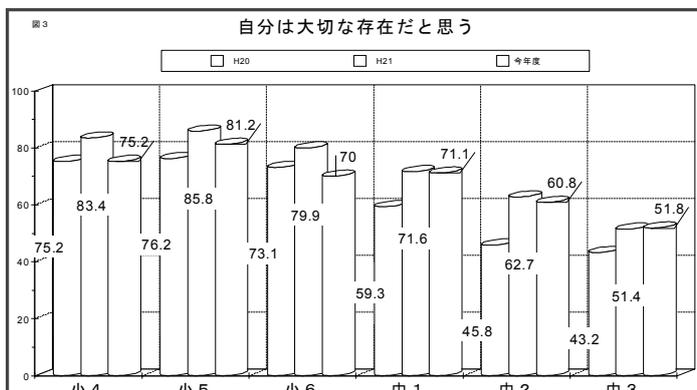


図3より

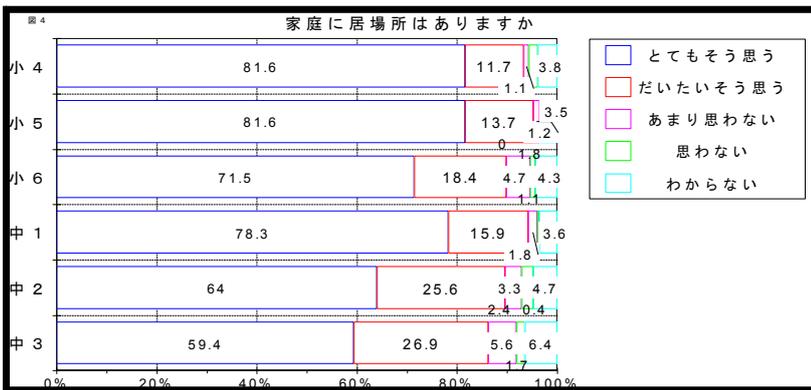
小5が最も多く「自分は大切な存在である」と答えている。

「自分は大切な存在である」という気持ちは、学年が上がるにつれて下がる。

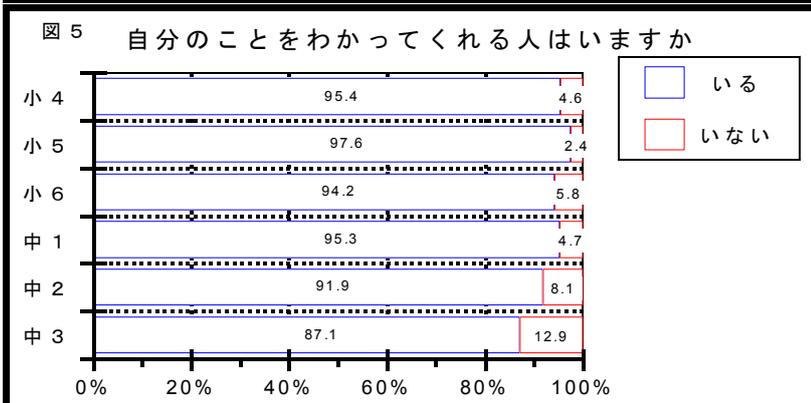


H18年度と今の子どもたちを比較すると「自らのことが好き」と答える子どもが増えました。また、生まれて良かったと思う子、自分は大切な存在だと思う子も少しずつ増えてきたと思います。

## (2) コミュニケーションに関して ア 心の居場所



- ・ 家庭生活を「楽しい」とどの学年も感じている者が多い。(図4)
- ・ 学校生活を「楽しい」と8割前後の者が感じている。



- ・ ほとんどの者が自分のことをわかってくれる人が「いる」と答えていたが、中2・中3になると「いない」と答える者が増えている。(図5)

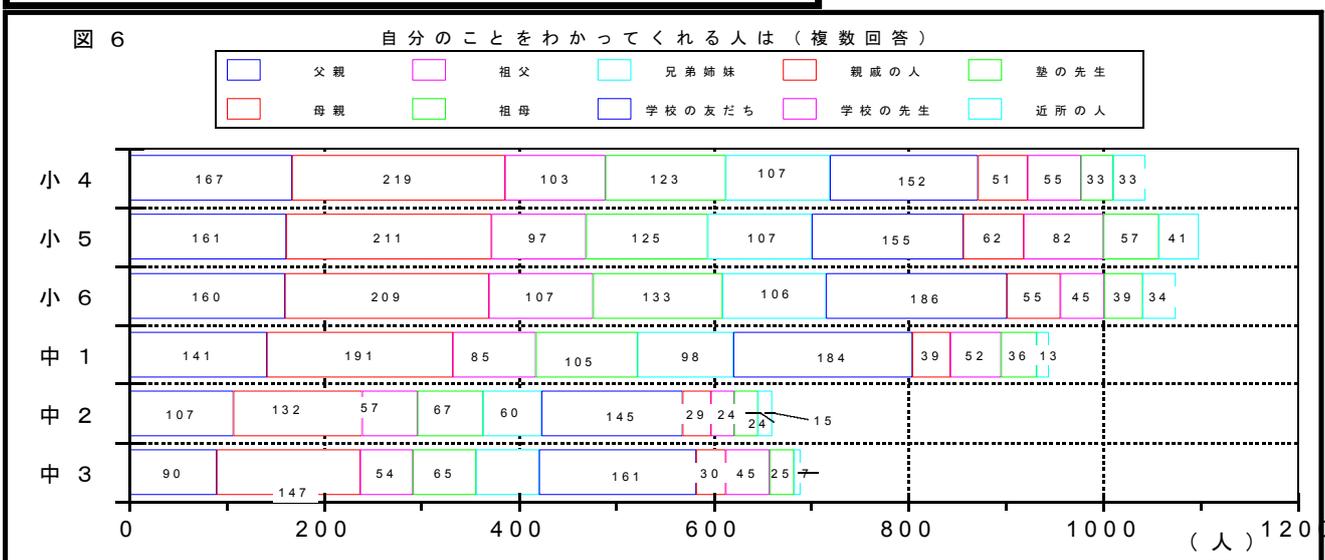


図6より

- ・ 自分をわかってくれる人に、小4～中1では「母親」と答える者がもっとも多かったが、中2・中3になると「友だち」がもっとも多くなる。
- ・ 中2・中3になると、「自分のことをわかってくれる」と思える人が減少している。

ほとんどの人が家庭にも学校にも居場所があり、自分のことをわかってくれる人がいると答えていました。

わかってくれる人に家族を挙げている人が多くみられましたが、学年が上がるにつれて友だちの存在の方が大きくなっていると感じました。



## イ よく会話する人

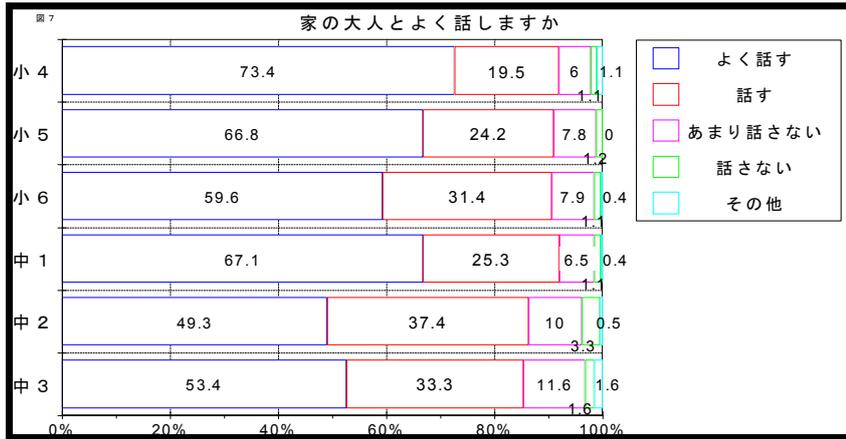


図7より

どの学年も8割以上の者は、家族との会話ができている。

しかし、学年が上がるにつれて「あまり話さない」「話さない」と答える者が増加している。

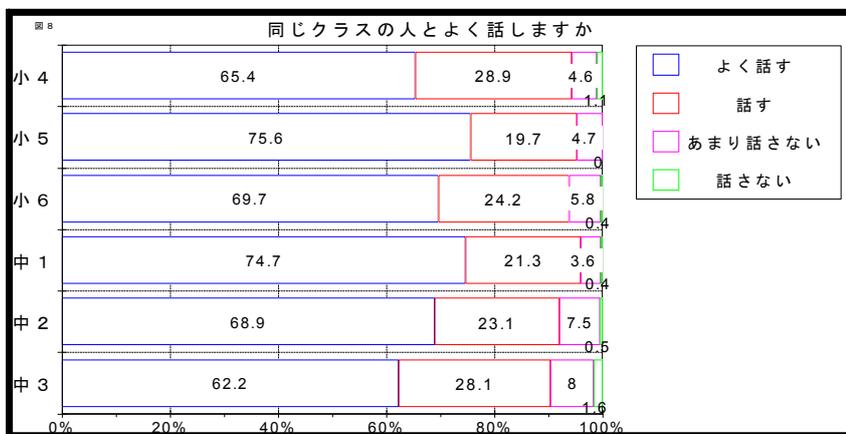


図8より

どの学年も「よく話す」「話す」と9割の者が答えている。

しかし、わずかではあるが学年が上がるにつれて「あまり話さない」「話さない」と答えた者が増加している。

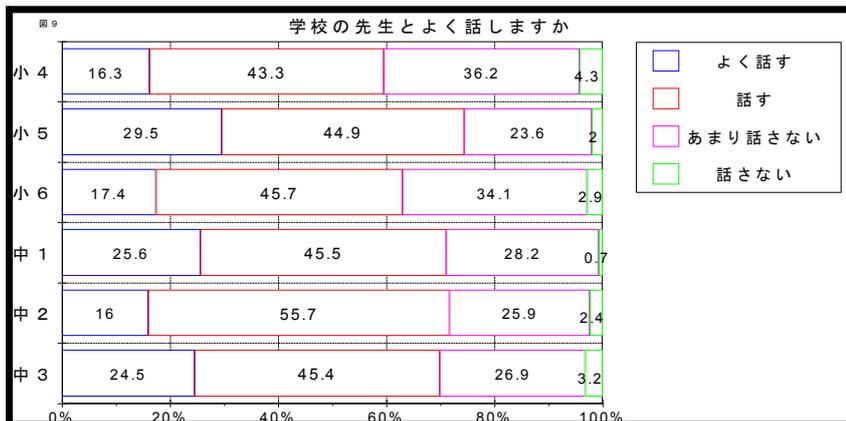


図9より

どの学年も6～7割が「よく話す」「話す」と答えている。

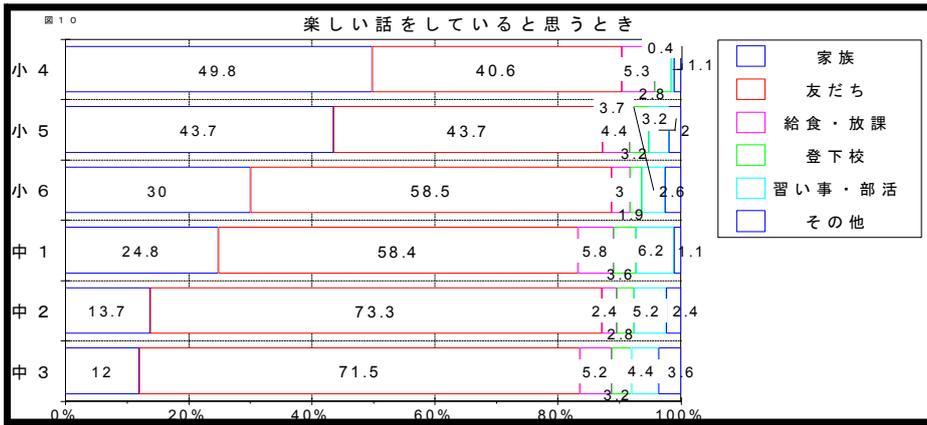
しかし、「あまり話さない」「話さない」と答える者がどの学年も3～4割程度いる。

ほとんどの者が家庭や学校でよく話をしていることがわかりました。

学校の先生と「あまり話をしない」と答える人が3割近くいましたが、教師からも子どもからもお互いに積極的に話しかけるよう心がけるといいですね。



# ウ 会 話



- ・ 学年が上がるにつれて、家族との会話が楽しいと答える者が減り友だちとの会話を楽しいと感じる者が増えている。(図10)

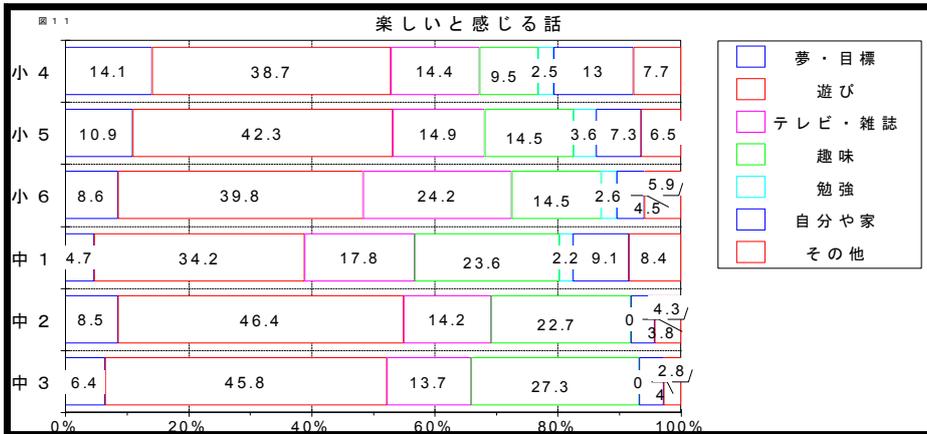


図11より

- ・ どの学年も、遊びの話・趣味・テレビの話を楽しむと感じる者が多い。
- ・ 学年が上がるにつれて「夢や目標」と答える者が減少している。

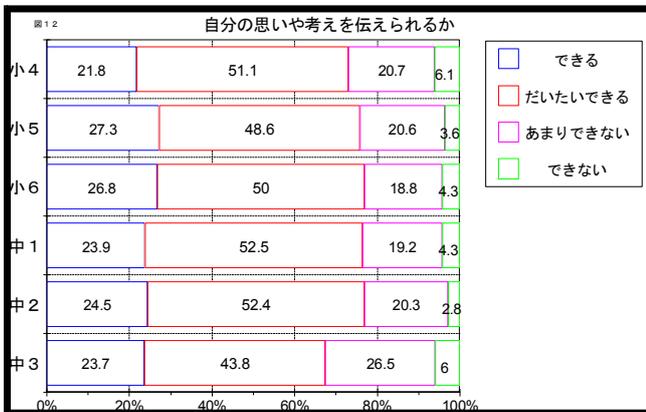
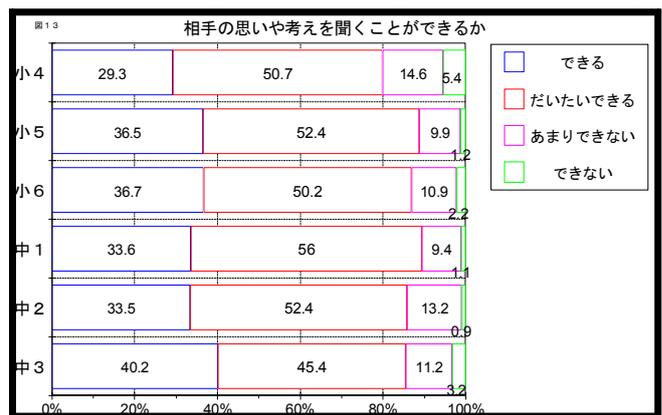


図12より

- ・ 自分の思いや考えを伝えることが「できる」「だいたいできる」と答える者がどの学年も7割程度いるが、3割は「あまりできない」「できない」と答えている。

図13より

- ・ 相手の思いや考えを聞くことが「できる」「だいたいできる」と答える者が、どの学年も8割以上いる。



学年が上がるにつれて、家族との会話より友だちとの会話が楽しいと感じるようになり、会話の内容も遊びや趣味の話が多くなりました。

会話の仕方については、自分のことを話すより、相手の話を聞くことのほうができる人が多いことがわかりました。



## エ 友達との会話

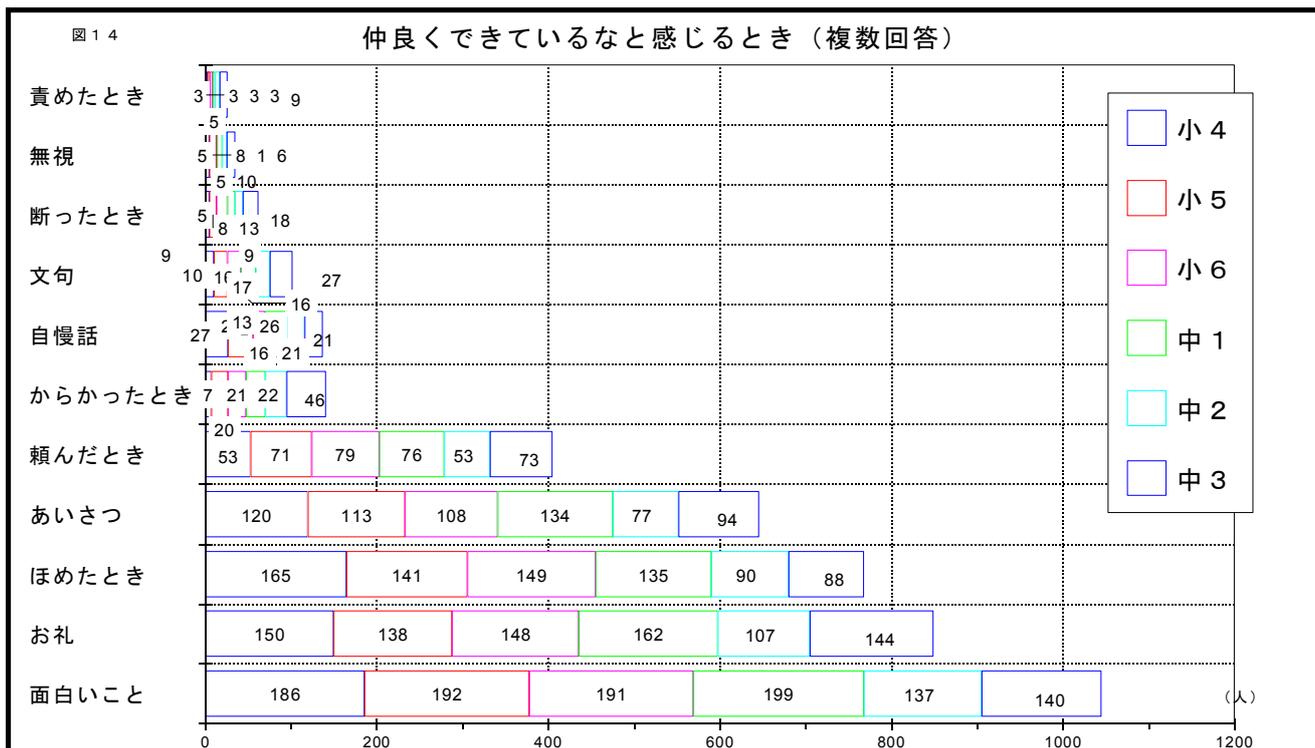


図 14 より

- 仲良くできていると感じるときは、おもしろいことを言ったとき、お礼を言ったとき、ほめたとき、あいさつをしたときが多い。



図 15 より

- いやな気持ちになったと感じるときは、無視したとき、文句を言ったとき、人を責めたとき、からかったときが多い。

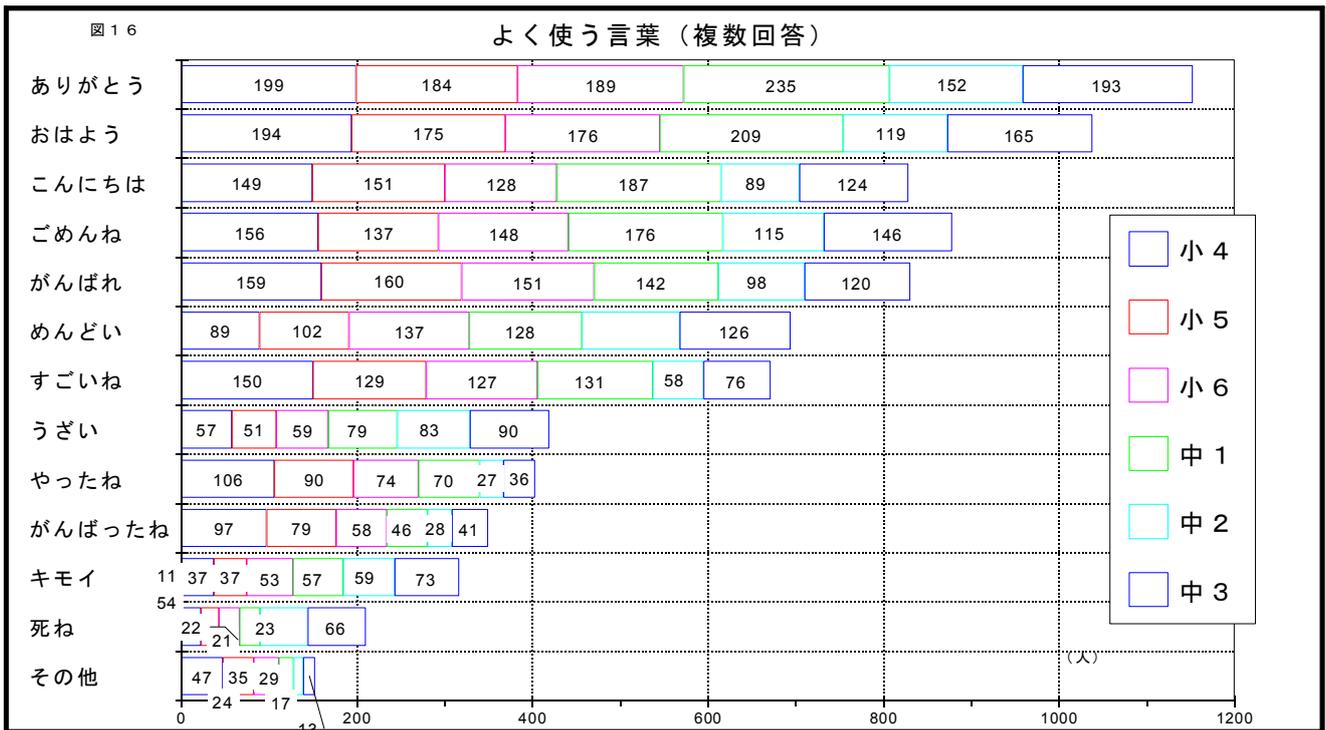


図16より

- 「ありがとう」「あいさつ」「ごめんね」「がんばれ」といった感謝の言葉、謝罪や励ましの言葉が多く使われている。  
しかし、「めんどい」「うざい」といったネガティブな言葉も多く使われている。

友だちに対しておもしろいことを言ったり、感謝の気持ちを伝えたりすると人間関係がうまくいき、無視をしたり、責めたり、からかったりすると人間関係がうまくいかないということを、ほとんどの子どもたちは理解できていました。

よく使う言葉の中に、自分も人も否定してしまう言葉がいくつかありました。子どもたちがこうした言葉を使わないように、みんな働きかけていく必要を感じました。



### オ ショックを受けた言葉

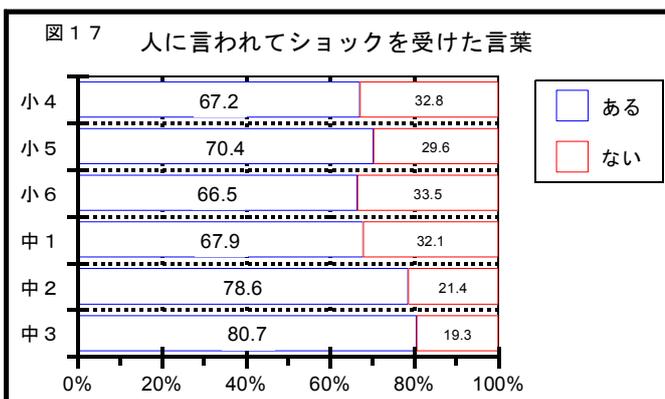
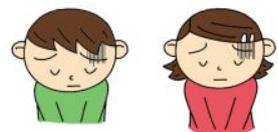


図17より

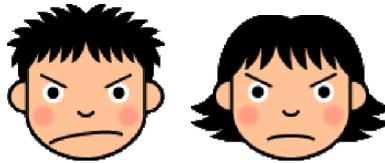
ショックを受けた言葉があると答える者が、どの学年も7～8割いる。



## ☆ 人に言われてショックを受けた言葉 ☆

### ○ 友達に言われてショックを受けた言葉

消えてほしい  
キモイ うざい



こっち来んで  
死ね

### ○ 兄弟姉妹に言われた言葉

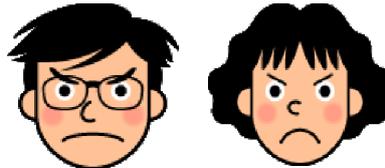
なんでこいつが  
きょうだいなの?!



消えろ!  
じゃま!

### ○ 親に言われた言葉

殺すぞ  
死ね  
出て行け



親やめるわ  
もう少し頑張りなさい



友達やクラスメイトから身体的な悪口（チビ・デブ・でか・メガネ）を言われてショックを受けた子がたくさんいました。

また、友達やクラスメイトからだけでなく、兄弟姉妹から言われてショックだった言葉にも「うざい」「きもい」「死ね」と書いている子がたくさんいました。学校だけでなく、家庭でもこれらの言葉が頻繁に使われていることがわかりました。

さらに、すごく頑張ったのに「もう少し頑張りなさい」と言われてショックを受けたと書いている子もいました。

相手の気持ちを考えずに発した言葉は、時に一生消えない心の傷になることがあります。言われた人の気持ちを考えた言葉を使いましょう。

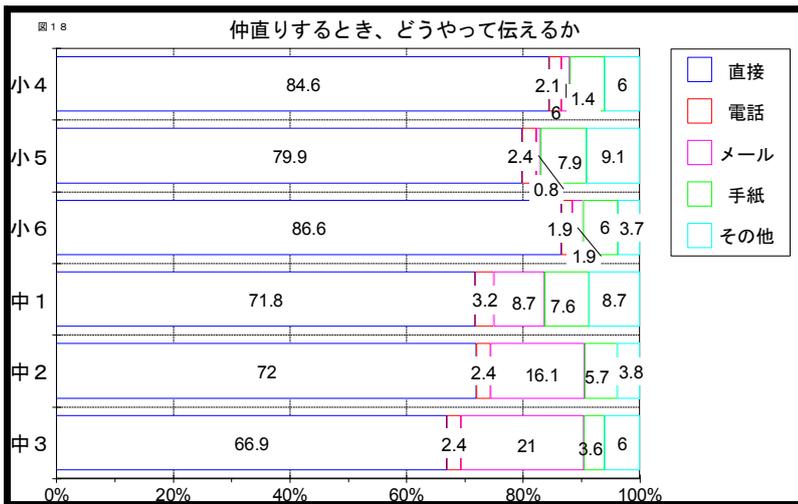


図18より

- けんかをした友だちと仲直りをしたとき「直接伝える」と答える者が多かったが、学年が上がるにつれて「メールで伝える」が増加している。
- その他の回答には「自然に仲直りするまで待つ」という答えが多くみられた。



子どもたちの多くが携帯電話かパソコンを持つようになり、人との関わり方も変化しました。けんかの仲直りにメールを使ってあやまる子が増えています。大切なことは直接、相手の顔を見て伝えてほしいと思います。

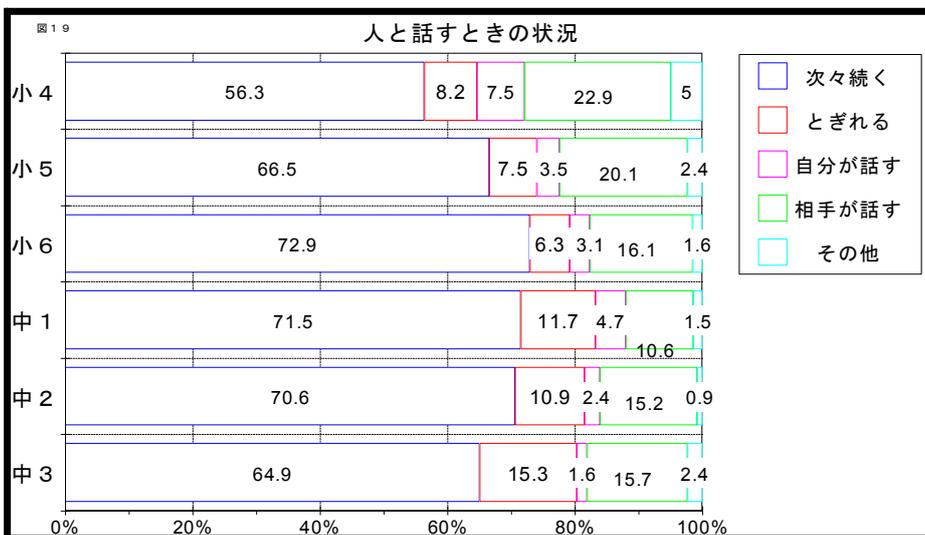


図19より

- 人と話すときに会話「次々続く」と答える者が多いが、学年が上がるにつれて「とぎれる」と答える者が増えている。



人と会話するとき、「話す」「聞く」を交互にできる人が7割前後いましたが、小6から徐々に減少傾向にあることがわかりました。

これからの社会で最も求められる力は、コミュニケーション能力です。自分の気持ちや考えを上手に伝えつつ、相手の話もきちんと聞く力を身につけましょう。

## ☆自分や相手がいやな思いをしないように気をつけていること☆

第1位	自分が言われていやだと思ふことは言わない
第2位	相手の気持ちを考えて話す
第3位	いやなことを言ったりやったりしない
第4位	自分の話ばかりしないで、相手の話も聞く
第5位	悪口を言わない
第6位	言葉づかいや言い方など考えてから言う
第7位	汚い言葉を使わない
第8位	相手の表情などを見ながら話す
第9位	人の話を最後まで聞く
第10位	盛り上がる話をする

### \*その他気をつけていること\*

- ・ 直接言っではいけないことを言わないようにしている
- ・ 相手の話にあわせる、相手の意見を優先する
- ・ からかわない
- ・ 自慢話をしない
- ・ 怒らないようにする
- ・ 楽しい話をする

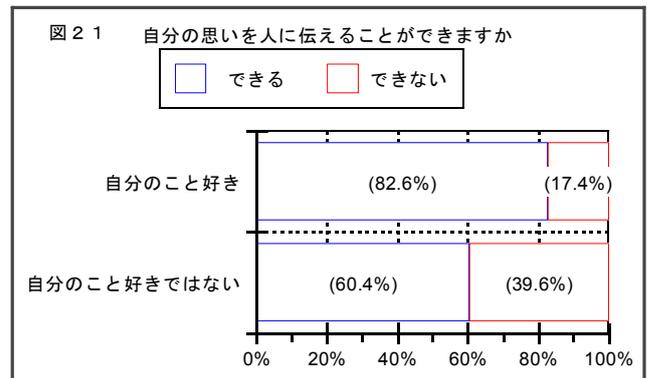
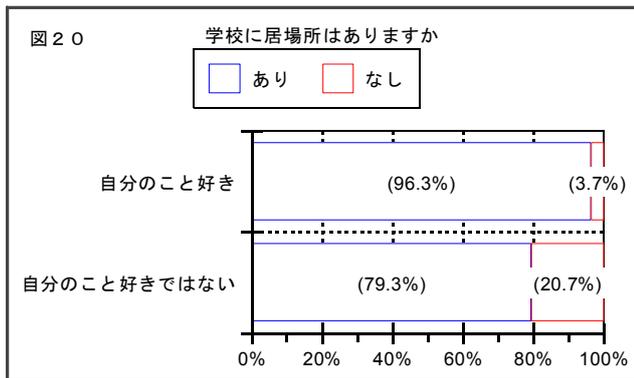
多くの子どもたちが、相手の気持ちを考えながら、とても気を遣って話をしていることがわかりました。中には会話の内容にまで気を遣っている子がいました。自分の考えや気持ちを上手に伝える力、相手の考えや気持ちを聴き取る力、さらにはお互いが理解し合えるような会話力が求められています。

学校・家庭・地域といった様々な場面で、色々な考え方を持っている人たち、様々な年代の人たちと関わりながら、会話力を身につけてほしいと思います。



### (3) 「自己肯定感」と「コミュニケーション」との関係

#### ア 自分のことが好きですか？



- ・ 「自分のことが好き」と答える子のほうが、学校に居場所があると多く答えている。(図 20)
- ・ 「自分のことが好き」と答える子のほうが、自分の思いを人に伝えることができると答えている。(図 21)

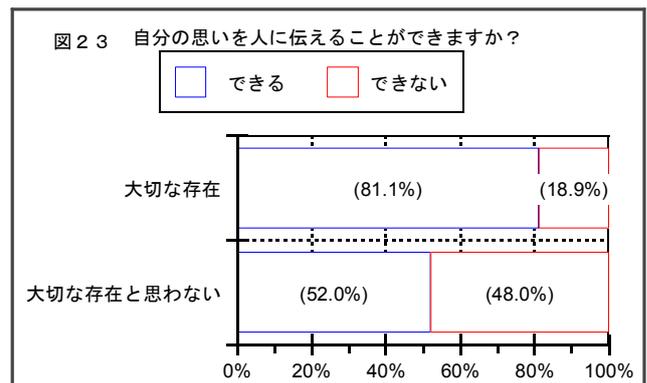
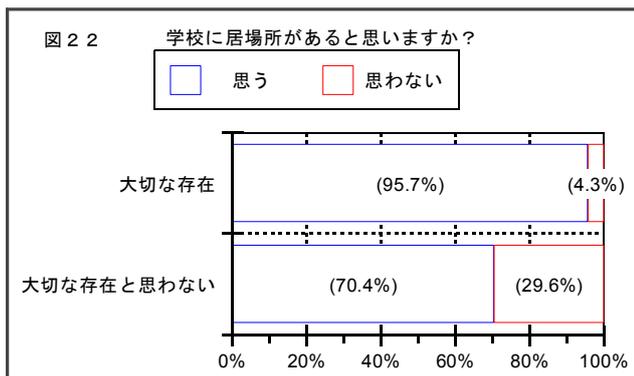
(その他)

自分のことを好きと答える子に多い回答

- ・ 家庭に居場所がある
- ・ 自分をわかってくれる人がいる
- ・ 家の大人とよく話す
- ・ 同じクラスの人とよく話す
- ・ 学校の先生とよく話す
- ・ 相手の意見や考えをきちんと聞くことができる
- ・ 会話がはずむ



#### イ 自分は大切な存在だと思いますか



- ・ 自分は大切な存在だと思っている子は、思っていない子に比べて「学校に居場所がある」と多く答えている。(図 22)
- ・ 自分は大切な存在だと思っている子は、思っていない子に比べて「自分の思いや考えを人に伝えることができる」と多く答えている。(図 23)

(その他)

自分は大切な存在だと思っている子に多い回答

- ・ 家庭に居場所がある
- ・ 自分をわかってくれる人がいる
- ・ 家の大人とよく話す
- ・ 同じクラスの人とよく話す
- ・ 学校の先生とよく話す
- ・ 相手の意見や考えをきちんと聞くことができる
- ・ 会話がはずむ



自分をわかってくれる人がいることや、家庭でも学校でも楽しく会話ができるからこそ、自分のことを好きと感じたり、自分の存在が大切であると感じることができるのではないかと思います。



### 3 考 察

人は誰でもおもしろいことや感動したこと、珍しいことなどを見たり、体験したりしたときには、他の人に伝えたくになります。つまり、心揺さぶられることがあれば、誰かに伝えたくなくなるのではないのでしょうか。幼いとき、「ねえねえ、聞いて、聞いて。あのね…」と話しかけたりしていたでしょう。そんな誰でも持っていた気持ちがいつの間にか小さくなり、自分のまわりの人の気持ちを考えることができず、自分を分かってもらえないと人を責めたり、自分の世界に閉じこもって人とうまく関わることができなくなってきている人が増えています。

今は、テレビ・DVD・ゲーム・インターネットなど人と会話をしなくても情報が子どもたちのまわりにたくさんあり、そこに楽しみを見いだしている子どもたちもいます。しかし、テレビやDVDなどは一方的に情報を与えるだけで、それらを観ている私たちは自分の気持ちを振り返ってみたり、自分以外の人の心を考えたりする必要はありません。

今回の調査結果でも、携帯電話やパソコンの普及により、大切なことでもメールで済ませてしまう子どもが増えていることがわかりました。中には問題を先送りにし「何とかなるまで待つ」といった消極的な関わり方をしている子どもも多くいました。

しかし、今の社会で最も求められている力はコミュニケーション能力なのです。受験でも就職でも面接が重視されるようになってきました。子どもたちのコミュニケーション能力を高めることは、これからの社会で生きていくために必要な力を身に付けることと言えるでしょう。そこで、今回の校区学校保健委員会を機に、知多中・味美中校区の子どもたちのコミュニケーション能力を高めしていくために、学校・家庭・地域が連携し、次のことを心がけていくことを提案します。

**★あいさつのできる町づくりをこころがけましょう。**

地域で出会う方と「おはようございます」「こんにちは」などのあいさつをかわしましょう。そうすると知らない者同士でも、心が通じ合う気がして、温かな心になります。

**★「ありがとう」という言葉をどんどん使いましょう。**

「ありがとう」という言葉は、人間関係の基本です。人に「助かったよ」「うれしいよ」「ありがとう」という言葉を言われると、自分の存在は人の役に立つという気持ちにつながります。

**★「ごめんなさい」の言葉が素直に言えるようになりましょう。**

誰でも失敗をして成長します。失敗をして人に迷惑をかけたら、素直に「ごめんなさい」と謝りましょう。そして、これからどうしたら同じ失敗をしなくなるか、一緒に考えましょう。

**★相手の話をしっかり聞きましょう。**

相手の話を真剣に聞くことは、「あなたのことを大切に思ってるよ」という気持ちを伝えることになります。

**★「がんばれ」より「がんばっているね」という相手を認める言葉がけをしましょう。**

みんなそれなりにがんばっているところがあります。そういう子ども（お友だち）に「がんばれ、がんばれ」だけじゃなく「がんばってるね」と言ってあげるほうが自分のがんばりを認めてもらった気がして、元気が出ます。

大人の皆様へ

**★夢や目標を楽しく語れる環境を作りましょう。**

小さい頃の子どもたちは自分の夢や目標をととても楽しそうに話します。しかし、大きくなるにつれて夢や目標を語ることが減っていきます。夢や目標があればこそ人は努力し続けることができます。子どもたちが目を輝かせて夢や目標を語れる学校・家庭・地域にしていきたいものです。



### Ⅲ おわりに

少し前のことですが、文部科学省の調査で、日本・アメリカ・中国の中学生の自己評価を比較した調査が発表されました。（日本青少年研究所「中学生の生活意識に関する調査」）

- |   |
|---|
| (1) 「私は他の人に劣らず価値のある人間である」と答えた子どもの割合<br>中国（86.6%） アメリカ（81.5%） <u>日本（31.5%）</u>     |
| (2) 「時には、私は役に立たない人間だと思ふことがある」と答えた子どもの割合<br><u>日本（56.4%）</u> アメリカ（32.0%） 中国（25.4%） |

この調査で言われていたことは、日本の子どもの自己評価の低さです。これは、日本の子どもたちが決して劣っているのではなく、日本の社会が子どもに対して何かにつけ、「わがままだ」「やる気がない」「甘えている」と否定的な言葉を繰り返して投げかけたり、「がんばれ」「がまんしなさい」と黙って努力や我慢することが美德であるという考え方を求めてきた結果ではないかという見方がありました。

大人が子どもの話に耳を傾けることにより、次の力が育つといわれています。

#### ☆自分が愛されている大事な存在なのだということを感じて、生きる勇気を得る。

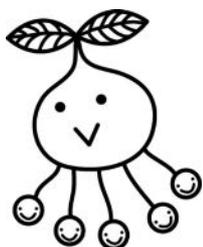
マザーテレサの言葉に「病気や貧乏はお金や薬があれば治る。しかし、世の中で自分は必要とされていないのだと感ずること、つまり絶望こそが最悪の病なのです」とあります。自分に関心を持ってくれる人がいること、その人に話す喜び、聞いてもらえる心地よさを体験した子どもは、自分が愛されている存在であることに気づき、生きる勇気を得るのです。

#### ☆気持ちを的確に表す言葉や考える力が育ち、他者とかかわる力が育つ。

話を聞いてもらっているうちに、自分の本当の気持ちや考えに気づくことはよくあることですし、考えがまとまることもあります。そして、何より聞いてもらえて気持ちがすっきりし、人とかかわる楽しさとかかわる力や意欲が身につきます。

大人は、子どもの感動した言葉や心を受け止める心のゆとりを持って、子どもたちに人とかかわる喜びを育てていきましょう。

そして子どもたちは、自分の気持ちが分かってもらえないとあきらめず、丁寧に自分の気持ちを伝える努力をしましょう。



#### ☆校区学校保健委員会シンボルマーク☆

5校がチカラを合わせて子どもたちを育てていくイメージ。5本の根っこが、成長を支えています。



## 知多中味美中校区学校保健委員会のあゆみ

平成18年度

自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして  
－地域で取り組む健康の基盤づくり－

平成19年度

自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして  
－「言葉」の持つ力を通して－

講師 春日井市教育委員会生涯学習スポーツ課指導員 安藤節子 先生

平成20年度

自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして  
－「言葉」とストレスを通して－

講師 臨床心理士 西川絹恵 先生

平成21年度

自己肯定感や思いやりの心を持てる子をめざして  
－未成年の飲酒から考える－

講師 山王小学校 薬剤師 加藤幸久 氏